

全国首長九条の会ニュース

2022年6月28日 第38号

ホームページ：<https://kubicho9jo.com/>

●連絡先：〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-7 神田中央ビル 303 九条の会気付 ☎03-3221-5075
fax03-3221-5076 メール：sppn3av9@hyper.ocn.ne.jp 口座番号 00190-4-635731 (全国首長九条の会)

9条改憲・軍備増強を許さないための参議院選挙

6月22日、参議院選挙が公示されました。自民党の茂木敏充幹事長は6月20日、「参院選後にできるだけ早いタイミングで、(憲法) 改正原案の国会提案、発議をめざしたい。早期に改憲を実現したい」と明言し、岸田文雄首相も「できるだけ時間をかけずに国民に選択していただく機会をつくる」とのべるなど、参議院選挙で改憲政党が三分の二を占めることになると、9条改憲が一挙に進む危険があります。そこで、共同代表の川井貞一さんと、市民と野党の共闘が実現した山梨県から、元笛吹市長の倉嶋清次さん、共闘は実現できませんでしたが、反自民の立場で選挙がたたかわれている三重県から元青山町長の松原美省さんに寄稿していただきました。

訃報です。「結成のつどい」と、「第2回総会と市民のつどい」で議長を務められた、元宮城県山元町長の森久一さんが6月10日逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。会員は127人となっています。

第26回参議院議員選挙を戦う



全国首長九条の会共同代表
川井貞一
(みやぎ憲法九条を守る首長
の会会長・元白石市長)

全国首長九条の会は一丸となって世界平和の為として我々の子孫の為、今回の参議院議員選挙を戦い抜こうではないか。

(1) 21世紀における日本国憲法9条の意義

20世紀において戦争は大転換をとげた。それまでは戦争は軍人という専門職の仕事であった。

19世紀後半から帝国主義の思想が支配的となる。帝国主義とは一つの国が自国の利益・領土・勢力の拡大を目指して発展途上国を侵略支配抑圧し、強大な国家を作ろうとする運動・思想・政策である。それ故に19世紀後半からの戦争は国家の総力戦となった。そして世界は不幸にも核と言う人類を滅亡させる武器を発明した。

この時日本は310万人の死者とほとんどの大都市が焼滅するといふ犠牲を払って九条を手に入れ

た。

世界は九条を作らない代わりにヒューマニズム(人道主義)を取り入れ、難民、社会的弱者、女性、子供に危害を加えないルールが一般的になった。

ヒロシマ、ナガサキ以降被爆国は一つもない。21世紀は戦争にさえヒューマニズムを導入し、自らが開発した核の使用を禁ずる時代になりつつある。その先駆けが9条である。故に9条は世界の宝なのである。

(2) 参議院議員通常選挙の意義と勝利への道

ロシアのウクライナ侵攻によって自衛隊を憲法に明記せよとか、9条を改正して再軍備すべきとかの声が高くなっているが世論調査で平和を求める声が過半数以上あることは共同通信の調査によって明らかである。国民全体の世論調査が過半数あるのに国會議員の改憲派が3分の2以上になるのは異常であり、野党乱立に原因がある。「小異を捨てて大同につく」と言う言葉がある。九条を守り平和を守る為の野党の団結は勝利への第一歩である。

思想は自由であるから小党乱立を否定は出来ないが未来(50年後)を考えると7月10日投票予定の第26回参議院議員選挙の重要性は計り知れない。

50年後に私達の子孫が平和を満喫しているか、破壊と地獄にあえいでいるかは今回の選挙にかかっている。その為に世界の宝9条を守る為に野党が結集して戦わなければならない。その鍵を握るのは全国首長九条の会である。

立憲・共産・社民と市民連合やまなし 選挙協力の協定を締結

元笛吹市長・市民連合やまなし共同代表
倉嶋 清次

市民連合やまなしは、6月18日、立憲民主党、共産党、社民党との間で、参院選での選挙協力について協定を締結しました。

昨年末以来、今夏の参院選に向けて県内立憲野党と協議を重ねてきましたが、芳野連合会長の共産党排除発言などもあり、また、全国的な調整を待たざるを得ないことから、協議は進みませんでした。

5月9日の市民連合と3党2会派による政策合意は大きな転機となりました。

そもそも山梨選挙区は、立憲民主党現職の宮沢由佳議員がおり、彼女は、毎月開かれる「19日集会」にほとんど全て参加し、「市民と野党の共闘議員宮沢由佳です」でスピーチを切り出しました。9条改憲と戦争できる国づくりに反対する市民は、宮沢支援以外に選択肢はないと考えていましたが、いち早く宮沢推薦を決めた連合山梨が共産党との関係にクギをさしたことから、一時困難に直面しました。しかし、市民の声の後押しもあり、立憲民主党県連内の調整も進み、何とか協定書の調印に漕ぎつけることができました。



(左が宮沢由佳さん、一人置いて倉嶋さんです。)

6月の「19日集会」はさながら宮沢勝利に向けた市民の決起の場となりました

「市民の手による選挙」は日本の民主主義を前進さ

せるキーポイント。一步一步経験を積み重ねていかねばなりません。選挙の時だけの共闘ではなく、心ある「保守層」をも含めた日常的な市民との対話・・・世界を語り、歴史を語り、日本社会を語り、政治を語る、日常的な積み重ねが、憲法を活かした平和な民主国家をつくり上げるために必須と考えます。

まずは参院選での宮沢勝利、立憲野党の前進が第1関門。 全国の皆さんとともに勝利に向けてたたかい抜きます。

参議院選挙三重県選挙区での 憲法9条を守るたたかい

元三重県青山町長 松原美省



三重県選挙区では事実上、立・民主・社推薦の無所属候補と、公推薦の自民候補の一騎打ちです。

野党と市民連合の統一候補擁立を主張した日本共産党のはたらきかけは、連合三重などの反対で実現しませんでした。

三重県では、民主党政権時代に岡田克也外務大臣、中川正春文科大臣、中井洽公安委員長が出て、今回勇退する芝博一参議院議員も立憲民主党の国対委員長でした。昨年の総選挙で、中川正春氏は自民党に僅差で敗れ比例区で議席は守りました。

芳野正英候補は、3年前、ローカルパーティー「三重民主連合」から立候補して敗れ、今回は無所属で立候補しています。

今春、3月18日、伊賀市における「芳野激励集会」は、中川正春代議士の司会で開かれました。挨拶の機会を得た私は、「昨年の20項目の政策合意は生きている」「日本の平和主義外交を貫くためにも9条改憲反対を鮮明にして闘ってください。ウイングを広げて勝利しましょう。」と発言しました。

中川正春代議士は現在、立憲民主党から憲法審査会に出席して、「9条改憲」に反対して奮闘されています。戦争か平和か。9条を守り通せるかどうか。日本の進路が問われる今回の参議院選挙は芳野候補を勝利させて「自・公・維新」の《戦争する国づくり》にストップをかける。私も精一杯の努力をします。